

# なかなま 2



2012年1月29日(日)

【制作・発行】  
横浜学童保育研究集会  
実行委員会 速報班

題字と写真：東神奈川クラブ

## 特別報告 池川尚美さん(宮城県学童保育緊急支援プロジェクト) 宮城からの東日本大震災報告

支援を頂きありがとうございます。

主に仙台市中心で支援しています。保護者OBです。

### 1. 東日本大震災における宮城の被災状況

宮城県は死者、被害者が6割を占めています。内陸部も大きな被害を受けています。

### 2. 宮城県内の学童保育概要

指導員さんは半年もしくは1年の任期制で、対象児童は1年生から3年生、場所は学校隣接がほとんどで、被災後、39施設が使用できない状況。

### 3. あの日のこと

みんなが被災者、住んでいたマンションでは天井が落ち、家具が倒れた状況で、水道、電気、ガス、携帯仕様できない中、今日をどうすごすか、心に衝撃を受けたひとりひとりが異なる。自分の受けた傷が他の人とは異なることをわかってほしい。

津波に見舞われた沿岸部、指導員がおやつを持ち出して食糧がなかった。親の迎えのない子どもはみんな一緒、食糧をすこしずつ分けて。低体温で亡くなる方も。食糧がきてもすくない。飢えと寒さ。

4. 震災後の学童保育  
あとなしくなったり、テンションが高くなったり(暴言をはく)。学童は本当に自分がいれる場所。指導員さんも収入が安定せず、生活が不安。

### 5. 震災後、一年近くを経て、いま

学童は子供の命を守る場所。生活という視点で子どもを守っている。今日はパネルが用意されているので見て欲しい。まだこれから長い道のりが待っている。引き続きご支援をお願いします



## 全体会講演 渡辺恵津子先生 かけがえのない子ども時代を豊かなものに

教師になって38年になる。昨年3月末まで埼玉の小学校に勤務し、4月から大学に移って主に算数教育に携わっている。

3.11の時、ちょうど2年生を担当していたが、突然の震災の混乱の中でパニックになった校長、日頃引取り訓練していたにも係わらず全生徒を無条件で帰した。

東北の震災現場を見て来た。

学校も家も教科書も家庭も何もかも失った中でも、子どもと教師さえいれば教育ができることがわかった。そこから今の教育がいかに余分な贅肉をつけ本質を見失いかけているかがわかる。

子どもが3人いる。長女は36歳になり学童保育を離れてずいぶん経つが、小学生の頃は学童保育に通わせ「つくり運動」にも関わったことがある。学童保育の父母会では夫が役員を務めていたが、会合の後は必ず呑み会になる。

仕事も家庭環境も違うもの同士が、子育てという共通の話題を通じてつながりあう関係は、学童保育が終わっても続き大人になった後も時に学童保育の縁側に集まることがある。学童保育は子どもにとっても親にとってもなつかしい存在になっている。学校にこのような想いをもつことがあるだろうか。



マキ君のこと。ラーメン屋を営む父親は毎日忙しく働き家には病気の祖母しかいない。母親は彼が2ヶ月の頃家を出て行った。

彼は毎朝ひとりで戸棚にあるパンをひとりで食べて登校する。乱暴者で1年生の頃は校庭にならんだ100人分の朝顔を抜いたりして新任の教師を泣かせたこともある。

学校だけでは彼のことがよくわからないので、学童保育の指導員に聞いた。指導員は学校の誰よりも彼や彼の家庭のことをよく知っていた。連携を取りながら真正面から向き合ううちに、名前を呼んでもロクに返事もなかった彼が少しずつ変りいきいきとした表情になった。

何かが変わったと感じた瞬間だった。大人どうしがつながることで子どもどうしがつながる、子どもどうしのつながりから大人どうしが結びつく・・・学校も家庭も忙しい中で子育てが「孤育て」にならないよう「個育て」の子育てを、学校と学童保育と家庭と社会とが全体で支え合っていきたい。

子どもがいつまでも笑顔でいきいきとしているように。

## 開会行事 ときわ学童クラブ フラフープダンス

今年の開会行事は、ときわ学童保育の「フラフープダンス」でした。

フラフープダンスという言葉は初めて聞いたので、フラフープを使ってダンスをするのだと思ってました。

実際は、フラフープをしながら器用にダンスをするという離れ業を見せてくれました！

子供ならではの運動神経と感心！！

笑顔も忘れずに、かわいらしい！！

華やかなオープニングダンスをつとめてくれた、ときわ学童クラブへステージ後にインタビューをしましたっ！終わった子ども達を伊礼会長、ときわ学童の保護者のみなさん、取材担当ちゃばで温かく迎えました。

ちゃば：みんなのステージ、とても上手で感動しました！前からやっているんですか？

疋田指導員：いえいえ…ときわ学童は創立8年目の学童なので、フラフープダンスも特に伝統的に…というワケでもないんです(^\_^)；フラフープ自体、日ごろから子どもに人気で、フラフープダンスも子どもの遊びの中から自然発生的に生まれました。特定の時間や曜日を決めて活動などを行っているわけではなく、毎日の自由遊びの中で、踊っています。今回は、いつもよく

踊っているメンバーに、「やってみない？」と声をかけたら、「やる、やる！」と乗り気になってくれて、参加にいたりました。

ちゃば：やはり、フラフープが好きな子ども達が集まったのステージだから、みんなとても上手なんですね★では、1番大変だったところはどんなところですか？

子ども：1番大変だったところというか…やっぱり、緊張しました。

ちゃば：えっ？！緊張してたの？！

じゃあ、この中で、緊張した人～？

子ども：はあい！（ほぼみんな挙手）

ちゃば：えー(・o・)!!そうは見えなかったよ!!すごく上手だったよ!!他に大変だったところがありますか？

子ども：練習で大変なのは、ぶつかっちゃうときです。踊っているときに、隣の人とぶつかっちゃうことがあります。今回のステージが小さくて…笑



## 参加者のこえ!

●今年も参加しました。第10分科会に参加します。宮城の様子を聞きたい。(学童保育スクラム、指導員)

●去年も野毛山の分科会に参加しました。講義が面白かったので今年も参加します。(中田学童、保護者)

●宮城の例がすごかった。話には聞いていたが具体的な例が多くて、テレビで見ていた以上だった。全体会は、色々な経験の話も聞けたのがよかった。(馬場学童、保護者)

●開会行事のフラフープダンスがすごかった。今年もかわいさが出ていた。(中田学童、保護者)

●第9分科会「学童ならではの生活作りとは？(食育)」に参加します。食べる時の礼儀というか、「いただく」ということ。今、子どもが1年生で、しつけの最中なので、そのあたりの話も聞けたらいいなと、期待しています(保護者)。

●はすのみ学童からは、1年生の保護者8名

が参加します。毎年、1年生の保護者はなるべく参加するよう、声かけをしています。参加した保護者からも好評です。第10分科会「災害から子どもを守る」へ参加します。当時アルバイトとして在籍していたが、当日はちょうどお休みだった。その場の対応を自分はしていないが、今は、責任をもって子どもを預かる立場にあるので、被災地の指導員の話やぜひ聞いて、保育に活かしたいと思い、申し込みました。(はすのみ、指導員)。

●第2分科会「昔の学童、今の学童、そしてこれから」に参加します。自分のクラブでは、OB会があり、年1回一同に会す機会(飲み会)があります。その中で、クラブの立ち上げに携わった保護者の苦労話を聞くと、「親が主体の学童保育」ということを再認識します。今後の運営の参考になればと思い、この分科会を選択しました。

●池川さんのお話は、現地の生の声を伺い、まだまだ被災地への支援が必要と感じました。学童の生活という視点が、子どもを支えるという言

葉が印象に残りました。渡辺さんの講演は、子どものやる気をどう引き出すか、クラブで悩んでいる最中、お話を聞いて良かったです。

実感と言葉をつなぐ、大人がプロセスに目を向ける、子育てはいくつになってもやり直しができるなどを持ち帰り、どう学童の生活に取り組みしていくか考えて、実践していきたいです。(どんぐり学童、指導員)

●渡辺先生の「実感のある学び」の話は感動しました。小学校の下請けにならず、学童らしい子育ての場にしていきたいです。(南西ブロック、保護者)



ライブでご意見をおきかせください！！

ykh\_gkd@auone.jp

研究集会の感想、ご意見など、皆様のご意見をメールでお送りください！(いただいたご意見は連協機関紙「学童保育のなかま」で使用させていただくことがあります)まで(左のQRコードにケータイ、スマホをかざしてをご利用ください)

【編集後記】

今年も裏方での参加でした。去年の経験を生かして今のところはスムーズに進んでいます。【北野】